明治以降の近代化に伴う公共空間の変遷
－上野公園に関する新聞記事の考察－

増田　政弘[1]・福井　恒明[2]

[1]学生会員　法政大学大学院修士課程　デザイン工学研究科　都市環境デザイン工学専攻
（〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1，E-mail:masahiro.masuda.8i@stu.hosei.ac.jp）
[2]正会員　博士（工）　法政大学教授　デザイン工学部　都市環境デザイン工学科
（〒102-8160東京都千代田区富士見2-17-1，E-mail:fukui@hosei.ac.jp）

明治近代化に伴い西欧化を推し進める中で，試行錯誤と日本流の解釈が日本の公共空間において行われ，日本独自の都市空間が形成されたと考えられる．それらは現在の公共空間の利用方法にも大きな影響を与えていると考えられ，近代化の過程で公共空間の空間整備や利用方法の変遷を通史的に見ることは重要である．本研究では，1873 年の太政官布達 16 号により誕生した公共空間である上野公園に注目し，新聞記事を用いて明治から現代までの記事内容を分析する．その結果，上野公園は明治期から現代にかけて，博覧会や展覧会を行う場所であったが，戦争や震災などをきっかけに公園の利用方法や公園内の建築物が多様化したことを明らかにした．

キーワード: *新聞記事，公共空間，公園，上野公園，近代化，変遷*

１．序論

⑴研究背景と目的

江戸から明治へ時代が変化し，明治近代化に伴い多くの人々や文化が東京に流入した．「文明開化以降，東京は西欧都市を模範にしたとはいえ，試行錯誤の学習と日本流の解釈を経て，日本にしかない独特の都市の空間や景観を作り出した」という陣内の指摘[1)]にもあるように，西欧化を推し進める中で試行錯誤と日本流の解釈が日本の公共空間において行われ，日本独自の都市空間が形成されたと考えられる．それらは，現在の公共空間の利用方法にも大きな影響を与えていると考えられ，公共空間の近代化の過程でどのような空間整備が行われ，どのように利用されてきたのかを通史的に見ることは重要である．

そこで本研究では，1873 年の太政官布達 16 号により誕生した，明治近代化を象徴する公共空間である公園に着目し，明治から現代までに公園内に建築されてきたものやその利用方法の変遷を明らかにすることを目的とする．

⑵既往研究

公園関連の先行研究には多くの蓄積がある．その中で各種法令の変遷から公園計画について論じた，杉田ら[2)]の研究や金子[3)]の研究がある．杉田らは都市計画標準の萌芽期から戦災復興までの公園計画標準の歴史的変遷を把握し，土地の立地性に左右された計画発想から立地性によらない計画発想への転換があることを明らかにした．金子は明治期以前から昭和までの都市公園の管理運営制度の変遷から公園管理方針の各時代の特徴を明らかにしている．また，特定の制度に着目した研究として，東京市区改正条例に着目した野嶋[4)]の研究や戦災復興期の公園緑地計画に着目した今村[5)]の研究がある．野嶋は東京市区改正条例により，公園を行政・警察の管理のもとに統制し，秩序化しようとしていたことを明らかにし，今村は公園緑地計画は戦前の公園緑地系統の影響を大きく受けており，戦前計画を継承したものは，大規模な公園としての位置づけが保持されていたことを明らかにした．

その他，現代の公園において利用方法の特徴を明らかにした研究として，嶽山ら[6)]や青戸ら[7)]の研究がある．嶽山らは公園内での商行為に着目し，地域活性化への貢献の一環として商行為を位置づけることが有効であることを明らかにし，青戸らは公園来訪者の行動調査から建物敷地と公園が接する空間を生み出すことが重要であることを明らかにした．

これまでの先行研究では，対象期間にばらつきがあり，明治以降から現代までの期間で，公園に建設されたものやその利用の変遷を明らかにした研究は見られない．

２．調査対象と研究方法

(1)調査対象

本研究では，明治期から現在までの変遷を見るため，1873年の太政官布達によって公園に指定された浅草公園（金竜山浅草寺）・芝公園（三緑山増上寺）・上野公園（東叡山寛永寺）・飛鳥山公園（飛鳥山）・深川公園（富岡八幡社）の5公園の中で，江戸時代より花見の名所として親しまれ，現在でも動物園や博物館があり，各時代で，公園内での利用方法や建築物の変遷の特徴を見ることができると考えられる上野公園を対象とする．

上野公園は1698年に江戸城の北東方向の鬼門を守り，天下泰平の祈願所としての意味も込めて建設された寛永寺の境内を1873年の太政官布達により公園として指定したことで誕生した．寛永寺の境内であった江戸時代から第一級の花の名所とうたわれており，寛永年間（1661年～1672年）からは花見の客で賑っていた[8]．1877年の開園時の公園区域は一山全体を含んでいたが，1890年に宮内省所管になり，1924年に東京市に下賜され，上野恩賜公園への改称などを経て，公園の広さは62.6ヘクタールまで減少した．さらに戦後の政教分離により，1871年に寺上地処分で取上げた場所の中で，東照宮や寛永寺関連の境内地が上野公園から解除されて公園面積はさらに減少し，現在東京都の管理している上野公園の面積は動物園を含めて約55ヘクタールとなっている[9]．

(2)研究方法

本研究では，社会的関心や時代背景を把握することができ，各時代の状況や当時の人々の関心事が反映されているメディアとして新聞記事を用い，上野公園に関して記載された記事内容を分析する．

３．新聞記事の抽出と分類結果

(1)対象記事

明治期に刊行された全国紙である朝日新聞を用いる．1879年から1999年の朝日新聞の記事をまとめて見ることができる朝日新聞縮刷版[10]の記事検索機能を用いて「上野公園」で見出し及び全文のキーワード検索を行い，総計3987件の調査対象記事を抽出した．

(2)記事内容の整理と分類結果

対象記事から時代ごとの傾向や相違点を読み取るために，各記事を話題別に整理・分類を行う．具体的には，

1. 公園空間内に建築されたものを把握するため，『公園内建築物の新築・改築・建築計画』『公園内建築物の移転・撤去』に関する記事
2. 公園が主に何に活用されているかを把握するため『行事・催し物』に関する話題に分類し，さらにその中から公園利用の目的を把握するために『皇室関連』『芸術・文化・学術・スポーツ』『国家・軍事関連』『集会・示威活動』『その他』に関する記事
3. 公園内で行われた行事や催し物以外で発生した出来事やその対応から公園への認識を把握するため『事件・事故』『災害・震災・復興』『規制・取締・注意喚起』に関する記事
4. 公園に対する見方や考え方を把握するために『公園観念・意見・協議』に関する記事
5. 1～4に該当しない記事

として分類し，その分類結果を**表-1**に示す．

４．公園の利用方法に関する考察

(1)考察の時代区分

新聞記事の分類結果より，1894年・1904年の日清・日露戦争，1923年の関東大震災，1945年の太平洋戦争によって新聞記事の内容に変化が見られた．そこで，これらの出来事によって年代を区分し，1870年代・1880年代，1890年代～1910年代，1920年代～1940年代，1950年代～1990年代に分けて考察する．

(2)1870年代・1880年代

1870年代は記事数が少ないが，上野公園で行われる博覧会に関する記事と皇室関係者の行幸に関する記事が見られ，博覧会の会場として利用された．

1880年代からは上野公園内において，国内の様々な文化，芸術作品を展示する博覧会，展覧会，共進会などの行事・催し物に関する記事が大きく増加する．また，それらの展覧会や博覧会に皇室関係者が訪れることも記事になっている．1888年に東京市区改正条例が公布され，東京市では新しい公園事業が展開されるが，上野公園内で開催される行事に変化はなく，公園の利用方法にも変化は見られない．

(3)1890年代～1910年代

1890年代から上野公園に関する新聞記事数が増加し，上野公園に対する関心の高まりが読み取れる．記事の内容としては展覧会や博覧会などに関する記事が最も多く，日本赤十字社や東京彫工会などの総会が上野公園内にある華族会館や国内勧業博覧会の旧会場を使って行われ，上野公園の利用方法の幅が広がったことが読み取れた．

表-1　年代ごとの記事分類

記事内容	公園内の建築物に関する話題		公園の利用方法に関する話題					公園内での出来事とその対応			公園の考え方に関する話題		
	公園内建築物		行事・催し物										
年代	新築・改築・建築計画	移転・撤去	皇室関連	芸術・文化・学術・スポーツ	国家・軍事関連	その他	集会・示威活動	事件・事故	災害・震災・復興	規制・取締・注意喚起	公園観念・意見・協議	その他	計
1870	1	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	2	11
1880	11	0	24	135	0	6	0	5	0	0	0	34	215
1890	21	1	68	219	42	136	9	111	2	5	5	142	761
1900	46	3	56	350	68	113	17	163	3	11	17	245	1092
1910	12	0	57	102	6	52	12	51	5	0	5	119	421
1920	35	5	13	93	8	36	71	103	23	15	16	159	577
1930	16	0	19	59	46	36	22	156	1	3	7	90	455
1940	4	0	9	73	8	28	5	14	4	3	0	29	177
1950	4	0	0	0	0	1	0	27	0	2	4	3	41
1960	15	0	0	0	0	6	0	23	0	11	0	33	88
1970	8	1	0	0	0	4	0	19	0	3	7	28	70
1980	6	0	0	0	0	5	5	7	0	0	3	24	50
1990	1	0	0	2	0	3	0	6	0	2	0	15	29
計	180	10	251	1036	178	426	141	685	38	55	64	923	3987

1894年から1895年にかけて勃発した日清戦争をきっかけに上野公園で開催される行事は，日清戦争の祝捷大会と1898年4月10日から開催された東京帝都三十年祭の国家や軍事関連の行事に関する記事が多く見られた．これまで行われてきた展覧会などの文化的な行事に加え，戦争祝捷会などの国家・軍事関連の行事を行う場所として利用されるようになったことが読み取れる．

1900年代は上野公園に関する新聞記事数が全年代の中で最も多い．1900年代も1890年代と同様に，これまで継続的に行われてきた博覧会や展覧化などの文化的な行事が行われ，1904年2月8日から1905年9月5日にかけて勃発した日露戦争により，「祝勝会」や「東郷大将一行凱旋歓迎会」などの軍事関連の行事を行う場所としても利用された．また，「英艦隊歓迎」行事など，国内にとどまらず外交の場としても利用されてきたことが分かった．

1910年代に入ると，戦争に関連する祝捷会などに関する記事は少なくなり，1880年代以前に見られた，博覧会や展覧会などの文化的な行事を行う場所として利用された．

(4) 1920年代～1940年代

1920年代初頭は「普通選挙促進」や「軍備縮小」など，政府に対する示威活動が活発化した．1923年9月27日に関東大震災が発生し，上野公園に多くの人々が避難し，避難場所としても利用された．避難場所となった上野公園では東京市による食料の無料配布などが行われ，避難者のためのバラックの建設が行われたが，バラック内で窃盗などの事件が発生するなど，公園内の治安の悪化が読み取れた．1928年頃から公園を新装することが決定され，公園内にあった茶店や野宿者への強制的な立ち退きが命じられた．また，市民奉祝会などの国家的行事が開催されるようになり，倒閣運動などの示威活動も活発化し，関東大震災前と同様の利用が行われるようになった．

1920年代から示威活動の活発化や関東大震災の発生による治安の悪化に伴い，公園内での規制や注意喚起が見られ，始末の悪い避難者への退去命令や上野公園での野外運動が禁止され，公園利用に一部制限が課された．

1930年代に入ると関東大震災関連の記事や集会・示威活動に関する記事数が減少し，1933年の建国祭や1937年に勃発した日中戦争の拡大に伴い，国民に対して戦時意識を持たせるための国民精神総動員国防博覧会などの軍

国主義的な国家関連行事が多く行われた.

1940年代初頭，上野公園で開催される展覧会のほとんどが海軍主催による「大日本海洋美術展覧会」と陸軍主催の「聖戦美術展来会」であり，その他の行事も「工作機械実演会」や「大型工作鍛圧機械実演中」など，拡大する戦争に向けて，軍国的な行事が多く行われ，日本の文化や芸術に関連する行事が行われなくなった．1945年8月15日の太平洋戦争終戦以降，空襲による被害を受けた上野公園内には浮浪者が多く存在する記事が見られ，1946年からは上野公園内での行事に関する記事が見られなくなったことから，戦争によって荒廃した上野公園内ではこれまでのような利用方法が行われなくなったと考えられる.

(5) 1950年代～1990年代

1952年4月30日「昔にかえる上野公園__東京都[11]」の記事において，「最近ようやく昔の姿に復旧，治安の回復と共に園内の照明増設計画も進められ，夜間の立ち入り禁止も近く解除される見通し」とあり，戦争終了時から7年が経過し，ようやく上野公園が本来の姿に戻り，公園が市民に広く利用され始めたことが分かる.

1960年代から1990年代は花見に関する記事が多くみられるようになり，上野公園は花見を行う場所として利用され，賑わいを取り戻していることがわかった．上野公園では自動車の交通を禁止するなど，公園を訪れる人々の安全に配慮した公園づくりが行っていたことが読み取れた.

5．公園内の建築物とその利用方法に関する考察

(1) 考察方法

公園内建築物に分類した記事から，具体的に新築・改築されたもの，建築計画が実施されたもの，撤去・移転されたものを抽出した（**表-2**）．これに基づき，前章と同様の時代区分により考察を行う.

(2) 1870年代・1880年代

1870年代，1880年代は上野公園で行われた内国勧業博覧会に向けての会場の整備や博覧会に伴う博物館の新築が行われ，展覧会や博覧会を行う場所として，それらの文化的な行事に向けた公園整備が行われた．また，1889年に建設された桜雲台は広間から不忍池が一目に見下ろすことができる場所として，懇親会や親睦会，総会など様々な目的で利用された.

(3) 1890年代～1910年代

1890年代は1890年に開催された第2回内国勧業博覧会の出展品の一つである電気鉄道の敷設が行われ，博覧会後は博覧会で展示した商品を陳列するために，陳列館の改築工事などが行われた．また，様々な偉人の銅像の建設計画があり，この時代に実際に上野公園に建設されたのは1898年に建設された西郷隆盛像だけであったが，彰義隊墓の改築工事を含め，偉人の功績や歴史を後世に残す取り組みが行われていた.

1900年代もこれまでと同様に博覧会や展覧会の会場の整備と様々な設置主体による美術館の新築や改築が行われ，文化的な行事や展示を行う空間として整備された．また，1894年に勃発した日清戦争と1904年に勃発した日露戦争による凱旋門や忠魂碑の建設が行われ，軍事関連の建築物の設置も行われた．皇太子の御成婚を記念して表慶館が建設され，改築が行われた精養軒や常盤華壇では懇親会や一部展覧会が行われ，文化的な施設に加え，皇室や軍事関連の施設も建設された.

1920年代は軍事関連の建築物に関する記事は見られず，東京大正博覧会の会場整備と美術館の改築や建築計画があり，偉人の功績を遺すための銅像の建設が行われた.

(4) 1920年代～1940年代

1920年代は平和記念博覧会や東京博覧会に伴う会場整備と博物館や美術館の改築工事が行われた．1923年の関東大震災に伴い多くの人々が避難し，避難所となっていた上野公園にはバラックの建設が行われ，震災時の利用を想定した貯水池の建設も計画された．震災復興後は博覧会の会場整備や美術館などの建築ではなく，中学校の新築と音楽堂やケーブルカーの建築計画が行われるなど，これまで以上に多様な利用目的をもった施設の建築や建築計画がされた.

1930年代はグラント将軍記念碑などのモニュメントの設置が多くみられる．球場とコートの新築により，小学生の野球大会や関東学生庭球大会など様々なスポーツ行事が行われるようになり，上野公園の利用方法の幅がより広がった.

1940年代は3年間の間に，功績を称える記念碑，文化芸術に関連する句碑，海軍記念日に設置された軍事関連の記念碑など，それぞれ異なる設置意図を持つ，3つのモニュメントが設置された.

(5) 1950年代～1990年代

1950年代から1960年代はボードワンの記念碑だけではなく，噴水や寄贈された緑のリズム像やトーテム・ポールなど様々なモニュメントの設置が行われる．また，上野公園に迷い子相談所の新築や竹の台広場の改築，交通

表-2 『公園内建築物（新築・改築・建築計画），（移転・撤去）』の建築物

年代	公園内建築物（新築・改築・建築計画），（移転・撤去）		
	記事数	記事の主題	建築物
1870	1	新築	博物館(1882)
1880	5	新築	博物館(1882)，彰義隊墓碑銘，グラント将軍記念碑(1930)，桜雲台(1889)，電気鉄道(1890)
	3	改築	内国勧業博覧会会場,
	3	建築計画	大久保利通・木戸孝允像，帝国博物館
1890	11	新築	電気鉄道(1890)，西郷隆盛銅像(1898)，無極亭(1898),
	5	改築	彰義隊墓，内国勧業博覧会会場，内国商品陳列館，日本美術協会,
	5	建築計画	故北白川宮殿下の御銅像，東京五二会館，故大浦けいの紀念碑，故山田伯爵の銅碑
	1	移転	華族会館
1900	24	新築	自働電話，東京市美術館，凱旋門(1905)，新道路(1907)，東京勧業博覧会美術館，噴水，演芸場，点灯，警察分署，下谷忠魂碑(1907)，表慶館(1909)，
	12	改築	寛永寺，御慶事奉献美術館，清水堂，石壇，精養軒，常盤花壇，電灯，美術学校
	10	建築計画	市公会堂
	3	移転・撤去	第5号館，凱旋門
1910	8	新築	加納翁銅像(1910)，故小松宮御銅像(1912)，東京大正博覧会会場,
	3	改築	自働電話，公会堂兼美術館，弁天堂
	1	建築計画	大博附属美術館,
1920	20	新築	平和記念博覧会会場，産業館(1922)，バラック，帝国図書館(1923)，東京博覧会会場，学士院会館(1926)，市民奉祝会場，グラント将軍記念碑(1930)，市立第二中学校(1928)
	6	改築	国立博物館，東京博物館，動物園，東京府美術館，鉄道線路
	4	建築計画	民衆娯楽場，貯水池，音楽堂，ケーブルカー
	5	移転・撤去	平和記念博覧会会場，上野電車駅，バラック
1930	9	新築	グラント将軍記念碑(1930)，球場・コート(1935)，科学博物館(1931)，爆弾の模型(1936)，桜の碑(1939)，博士王仁碑(1939),
	2	改築	博覧会会場，不忍池ボート場,
	4	建築計画	京成電鉄軌道，東洋古美術の殿堂
1940	4	新築	博士王仁碑(1940)，句碑(1941)，鎮遠の錨(1942)
1950	2	新築	緑のリズム像(1951)，ボードワン博士像，記念文化会館
	2	改築	弁天堂
1960	12	新築	迷い子相談所，噴水(1962)，トーテム・ポール(1964)，ブロンズ像(1964)，美術展示館(1967)，交通安全ロボット(1966)，児童文学文庫(1967)，パゴダ(1967),
	2	改築	茶店，竹の台広場
	1	新築計画	大仏殿,
1970	2	新築	大仏(1972)，下町博物館
	4	改築	派出所，京成電鉄上野駅，広小路口,
	1	建築計画	応急給水そう
	1	移転・撤去	笑福亭
1980	2	新築	ベンチ(1982)
	4	改築	奏楽堂，水上音楽堂
1990	1	新築	国民栄誉賞受賞者の石柱(1995)

()内は新聞記事に記載のある建築年

事故を減らすことを目的とした交通安全ロボットの設置などが行われ，花見の名所として，より安全で快適に公園を利用できるような整備が行われた.

1970年代以降も上野公園の利便性をより向上するための駅や公園入口の改築が行われ，博物館や音楽堂の新築や改築など，文化的な施設の建築も行われた.

1990年代は記念碑が1つ設置されたのみで，これまでに行われた展覧会などの会場の整備に伴う建築物や国家・軍事関連の建築物は見られなくなった.

６．各時代の公園整備や環境と利用方法の考察

4章と5章の分析から，時代区分ごとの公園整備や公園環境とその利用方法について考察する．

1870 年代から 1880 年代は博覧会や展覧会などの日本の文化芸術に関する文化的な行事を行う場所として利用され，それらの行事に向けた博物館などの公園整備が行われた．

1890 年代から 1910 年代にかけては，日清戦争や日露戦争をきっかけに，これまでの文化的な行事を行う場所としてだけではなく，国家や軍事関連の行事が行われる場所としても利用されるようになった．この頃から人物の功績や歴史を後世に残すための記念碑や銅像の設置や設置計画が行われるようになり，この頃に新築や改築を行った精養軒などは懇親会や総会を開く場所として長く利用され，上野公園の利用方法の幅が広がった．

1920 年代から 1940 年代にかけては関東大震災に伴う避難所としての役割を果たしたほか，集会や示威活動が活発化し，公園内にも中学校や球場など施設が建築され，これまで以上に多様な公園利用が行われるようになった．しかし，日中戦争の勃発により，公園内は軍事関連の行事を行う場所として利用されるようになる．

1950年代からは戦争による荒廃から復興し，これまでの文化的な行事や軍事関連の行事を行う場所ではなく，花見の名所として利用され，人々で賑わうようになり，上野公園を安全に利用できるような建築物の新築や改築が行われるようになった．

明治近代化以降，博覧会や展覧会などの文化的行事を行う場所から，2 度の戦争をきっかけに軍事関連の行事や示威活動などの活発化により，公園の利用方法に多様化が見られた．また，公園内の建築物も博覧会や展覧会を開催するための公園整備に加え，人物や歴史を顕彰するモニュメントの設置や球場の建築など，時代の変遷と共に多様化が見られた．太平洋戦争後は花見の名所として利用されるようになり，公園をより安全に利用できるための公園整備が行われるようになった．

７．まとめ

⑴結論

明治から現代までの新聞記事の分析を行い，上野公園は博覧会や展覧会を行う場所から，戦争や震災をきっかけに利用方法や公園内の建築物が時代の変遷とともに多様化したことを明らかにした．

⑵今後の課題

本研究の課題として以下の2点があげられる．

1. 図面や写真情報を補完し，「置かれているもの」と「使われ方」から上野公園の近代化の過程に関する考察の制度を高めること．
2. 他の公園等に対する調査により，公共空間の近代化の過程を考察すること．

参考文献

1) 陣内秀信：東京の空間人類学，p.14，ちくま学芸文庫，1992
2) 杉田早苗，土肥真人：市区改正期から戦災復興期までの公園・緑地計画標準に関する研究，ランドスケープ研究，第65巻，第5号，p.763-768，2001
3) 金子忠一：わが国における都市公園管理関連制度の変遷に関する基礎的研究，造園雑誌，第54 巻，第5号，p. 317-322，1900
4) 野嶋政和：東京市区改正期における近代都市公園の展開，都市計画論文集，第29巻，p.223-228，1994
5) 今村洋一：戦災復興期における東京の公園緑地計画に対する旧軍用地の影響について，都市計画論文集，第47巻，第3号，p.727-732，2012
6) 嶽山洋志，中瀬勲：都市公園における商行為の実態調査，都市計画論文集，第42.1巻，p.118-123，2007
7) 青戸良宏，嘉名光市，藤本和男，赤崎弘平：都心の公園際における空間形態とその利用に関する研究―大阪・靭公園内外のつながりに着目して―，都市計画論文集，第42.3巻，p.37-42，2007
8) 小林安茂：上野公園，p.16，東京公園文庫，1980
9) 同掲4)，p.88
10) 朝日新聞：聞蔵Ⅱビジュアル「朝日新聞縮刷版1879～1999」http://database.asahi.com/library2/main/top.php
11) 朝日新聞，1952年4月30日朝刊，「昔にかえる上野公園＿東京都」